

令和5年度 綾瀬市立綾北中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標	・考える力 考える習慣を身に付け、公正な判断のできる人 ・美しい心 自分をみがき、他人を尊重できる人 ・健康 素直な心を持ち、心身共に健康な人
学校経営方針 (グランドデザイン)	開校51年目 令和5年度 綾瀬市立綾北中学校 グランドデザイン かながわ教育ビジョン 心ふれあう しなやかな 人づくり 綾瀬市の基本目標 人を思いやり、社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども 目指す学校像 活気があり、地域から信頼される学校 学校教育目標 考える力・美しい心・健康 【考える力】 考える習慣を身に付け、公正な判断のできる人 【美しい心】 自分をみがき、他人を尊重できる人 【健康】 素直な心を持ち、心身共に健康な人 指導の重点 確かな学力の育成 学習する生徒のための授業づくりに努め、学び方を身に付けた生徒を育てる ◎共に学び共に育つ授業の実践 ◎校内研究の活性化 ◎基礎・基本の定着 ◎家庭学習の奨励 授業に基盤的に取り組んでいる生徒が65% 心豊かな生徒の育成 一人ひとりを勇気づける指導で、心豊かな活力のある生徒を育てる ◎互いの個性を尊重し、他者と協働する力の育成 ◎「考え、議論する」道徳授業の実践 ◎元気でさわやかなあいさつの励行 ◎JICA、SWや外国語との積極的な連携 楽しく豊かでできる生徒が65% 健やかな心身の育成 健やかな心身を育み、心とからだをコントロールできる生徒を育てる ◎基本的な生活習慣の定着 ◎学級活動、生徒会活動の活性化 ◎体育祭、合唱祭の活性化 ◎安全で清潔な環境の整備 学校行事や部活動に積極的に参加している生徒が65% ともに育てる学校づくり 学校の情報の発信に努め、保護者や地域とともに生徒を育てる ◎保護者との信頼関係の深化 ◎学校・学校 各種行事の発行 ◎PTAや地域人材の活用 ◎小中学校との交流と連携 学校の機能がいかにより活用されているかという意識が65% 共育 保護者とともに PTA 小学校とともに 綾瀬市立小中一貫教育 地域とともに 綾北中学校区=小学校(天台・寺尾・綾瀬・綾北)との連携、指導の継続 地域で学び、校舎を誇りに思う子どもたちの育成 目指す教員の姿勢 ◎「何を学ぶか」を自ら決める授業づくりに努め、学び方を身に付けさせる教師 ◎生徒に、学習を楽しくさせる持って公平に接し、主体的な態度で臨むことにある教師 ◎組織の一員として協働し、主体的に学校運営に関わろうとする教師 ◎協働授業を行う、地域の期待に応える教師 目指す教育の姿 ◎「何を学ぶか」を自ら決める授業づくりに努め、学び方を身に付けさせる教師 ◎生徒に、学習を楽しくさせる持って公平に接し、主体的な態度で臨むことにある教師 ◎組織の一員として協働し、主体的に学校運営に関わろうとする教師 ◎協働授業を行う、地域の期待に応える教師
今年度の重点目標	・学習する生徒のための授業づくりに努め、学び方を身に付けた生徒を育てる ・一人ひとりを勇気づける指導で、心豊かな活力のある生徒を育てる ・健やかな心身を育み、心とからだをコントロールできる生徒を育てる ・学校の情報の発信に努め、保護者や地域とともに生徒を育てる

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「考える力」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	学習意欲については、生徒・保護者ともにどの学年でも肯定的な評価が多くなっています。今後も「学び方を身に付けた生徒」を育成するために、生きて働く「知識・技能」の習得と未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等の育成や、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」等、涵蓋な3つの柱を、相互に関連を図りながら身に付けさせていくとともに、学び合う学習活動や家庭学習等を充実させ、あらゆる教育活動を通して育成を図るよう努めていきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や部活動に積極的に参加している。	感染症の状況に合わせ、少しずつ例年の形に戻しながらの学校行事の実施となりました。アンケートでも生徒の約9割以上が意欲的に取り組んでいるという結果でした。保護者の方の参観も人数を制限せずに実施することができ、生徒の様子やたより等から生徒の意欲的な取り組みが伝わっているように思われます。今後も生徒が主体となり行事を作り上げていく形式を大切にし、その過程や結果を達成感に繋げていくことで活動を充実させていくことを目指します。
3 児童・生徒指導	学校は、「美しい心」を育てる指導を積極的に行っている。	生徒のアンケート結果から、多くの生徒は、友人と良好な関係をつくる努力をしていることがわかります。保護者のアンケート結果からも、生徒の友人関係を肯定的に捉えていることが伺えます。学習指導、生活指導をはじめ学校生活のあらゆる場面を通じ、双方のコミュニケーションを大切に、今後もより良い関係づくりに努めます。また、教職員に対しては道徳の研修を充実させるとともに、道徳の授業の中で互いを認めあったり生徒一人ひとりを勇気づける言葉かけをしたりして、心豊かな活力のある生徒の育成に努めていきます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	アンケート結果からは、約9割の生徒が「楽しく登校できている」と回答をしています。「スクールアンケート」など、多感な揺れ動く生徒の心理状況等を把握するために有効なツールを今後も活用して、不安や不満を抱える生徒の早期発見、早期解決に向けて努めていきます。また、生活相談はカウンセリングマインドを持って対話することで、課題解決を助ける良い機会となっていますので、今後も定期的に実施していきます。さらに学習や人間関係のつまづきの早期発見のために、日常の関わりを大切にすることで気軽に相談できる教育相談体制をより強化していきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のために取り組んでいる。	アンケート結果では、教職員と保護者との回答結果に隔りがありますが、いじめの早期発見・再発防止に向けての取り組みを保護者に十分に周知することで、理解を得られるよう努めていきたいと思えます。いじめは、すべての生徒に関係する問題であり、安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、今後も生徒の小さな変化に気を配り、毎月行う「スクールアンケート」や学校生活の様子から早期発見に努め、学年や学校全体の情報交換体制を充実し、いじめ防止等対策委員会を中心に早期解決に向けた組織的な対応に取り組んでいきます。
6 保健管理	学校は、「健康(素直な心を持ち、心身ともに健康な人)」を育てる指導を積極的に行っている。	アンケート結果では、7割以上のご家庭・生徒から、生徒が「健康や体力に関心をもって生活している」との回答が得られました。しかし、生徒やご家庭からは、あまり関心をもっていないという回答もあり、教職員との意識の隔りがあります。今後も、日々のけがや体調不良、心の健康にも留意し、職員連携、保護者連携を大切にして生徒の心身の健康や安全の確保に努めていきます。また、定期健康診断の結果について各家庭と情報共有を図ることで、生徒の健康管理に努めます。さらに、食育や保健指導を通して、生徒自身が自分の心身の健康に関心を持ち、セルフコントロールできる力を育てていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今後もPTA校外委員会と連携して下校指導をすることで、登下校時の課題点を把握することに努めます。さらに、学校運営協議会との連携も視野に入れ、地域の力を借りて校外における安全対策を検討していきます。保護者に対しては、地域に出没する不審者等を見かけた場合は、すぐに警察に通報するとともに学校にも連絡を入れるよう依頼をし、校内でのより迅速な対応に努めていきます。また、校舎施設設備の点検と安全管理体制の強化に努めます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	今後も、さまざまな教育的ニーズをもつ生徒に対して、個別の支援体制の充実を図るとともに、教職員間において情報発信・情報共有を図り、学校全体で支援教育の意識向上、体制の充実を目指して取り組んでいきます。保護者に対しても支援教育に関する学校の取り組みや情報を発信し、相互に理解を深め協力していけるよう努めていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	校長のグランドデザインをもとに管理職や総括教諭、学年代表を中心として、企画会、学年会、グループ会議等を活性化し学校運営を目指します。各グループでは、PDCAのマネジメントサイクルを効果的に実施していくことで学校教育目標の達成を目指して努力していきます。さらに、教員一人ひとりの負担が軽減できるように適切な業務分業と精選を図るとともに、勤務時間内で仕事が終わるように働き方改革を意識した学校組織づくりを行います。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるために力を入れて取り組んでいる。	本校では、グループワークやタブレット端末の活用を取り入れた、わかりやすい授業を展開し、生徒の学習意欲を高めるために、全教員で組織的に授業研究に取り組んでいます。今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善をするために、単元構想を軸とした授業の在り方や、ペアやグループでの意見交流活性化への工夫、ICTの活用、指導と評価の一体化などに研究を重ね、更なる授業改善を推進していきます。また、教職員一人ひとりの資質向上と学校の組織力を向上させるためにも、外部講師による研修会や授業参観などを通してOJTを大切にしています。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	「学校教育目標」や「指導の重点」にあるように、学校は生徒のよりよい成長を目指した教育活動を行っています。保護者へのアンケート結果から「よく知っている」「知っている」を合わせた回答が約3割であり、学校教育目標が十分に保護者へ伝わっていない現状が伺えます。今後は、校内廊下や階段に掲示するなど、多くの方の目に触れるよう工夫をし、広報活動を進めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取り組みを行っている。	保護者へのアンケート結果からは「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて約9割以上の回答を得ています。この背景としては、C4th Home&Schoolやスクリレの効果が大きいと考えられます。なお、どちらにおいても、加入保護者数は1月現在で学校全体の9割ほどとなっており、最新の情報が多くの保護者に伝わりやすくなっています。また、学校だよりや学年通信などが保護者の手元まで届くように配付物用ファイルの活用をしたり、PTAと協力して体育祭や合唱祭の様子が保護者に伝えられるように広報誌を作成したりする取り組みを行った成果と考えます。さらには、学校だよりに学年通信の発行済み号数を掲載したり、懇談会や保護者会、面談等で学校の様子を伝えたりするなどの工夫も重ねています。また、昨年度より発足した学校運営協議会については、開催日時や議題等を学校だよりやホームページにて通知しています。今後も、積極的に生徒の学校生活や授業中の様子を伝え、様々な場面で保護者と連携した取り組みを考えていきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・「各グループの仕事が円滑に行われていると思いますか。」「指導力向上・授業改善に向けた校内研究に積極的に取り組んでいますか。」「教師の力量を高めるための研修に積極的に取り組んでいますか。」という設問に対して、否定的な回答が他の設問に比べてやや高いことが協議された。これは学校の人員不足による。教員の業務過多が原因ではないかと推察される。そのために積極的な教材研究や校内研究に携わる時間が削減されているのではないかと議論がなされた。今後の取り組みとしては、教員一人ひとりの負担が軽減できるように適切な業務分業と精選を図るとともに、勤務時間内で仕事が終わるような働き方改革を意識した学校組織づくりを行い、また、今年度実施した家庭科におけるソーイングプログラム・本校の学校教育目標を周知徹底する具体的な方策として、たよりや校内の掲示物への掲載を充実させるだけでなく、校外の掲示でもPRしていくべきではないかという意見も出た。公道沿いの学校のフェンスに大きく掲示するなどの新たな視点からの広報活動も検討したい。		